

授業概要

分野	学科目		2年前期		90分講義 7回 50分講義 1回
専門分野 I	基礎看護学方法論Ⅷ		45時間 (15時間)	1 単位	
授業科目			講師名		
看護過程			専任教員(実務経験者)		
科目目標	1. 看護過程の基礎的知識・技術を身につける。				
	回数	項目	内容		
科目内容	1	看護過程の意義とアセスメント	1. 看護過程の意義とヘンダーソンに基づく看護過程の概要		
	2		2. アセスメント(事例の活用) 情報収集と現状の分析・解釈		
	3		3. アセスメント 意図的な観察と情報の検討 基本的ニードとアセスメントの視点		
	4		4. アセスメント 未充足な現状と原因・誘因、ニードと問題の明確化		
	5	看護計画と評価	5. 対象を理解するアセスメントの過程と援助の方向性		
	6		6. 問題の明確化と全体像の検討、看護上の問題点抽出 問題を解決するための看護目標と看護計画立案		
	7		7. 全体像をとらえた看護過程の展開 看護上の問題と目標・具体策		
	8		8. 看護実践の評価方法と看護過程の連続性		
			9. 基礎看護学実習での展開した看護過程の学び 看護過程の展開プロセスと看護の実際		
【授業形態】 講義、演習					
【評価方法】 筆記試験、出席状況、レポート (配点 40点)					
【テキスト】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェル・ヒロカワ					

授業概要

分野	学科目	2年前期		90分講義 15回
専門分野 I	基礎看護学方法論Ⅷ	45時間 (30時間)	1 単位	
授業科目			講師名	
臨床看護総論			専任教員(実務経験者)	

科目 目標	1.生活者である対象を総合的に捉え、生活を見据えた看護展開方法を学ぶ。
----------	-------------------------------------

	回数	項目	内容
科目 内容	1	事例の理解	1.実習事例の選定 2.事例を理解するための自己学習
	2		3. 病態と看護問題の関連性の理解 1) 症状のメカニズムの理解 2) 症状による身体および日常生活への影響
	3	事例に応じた看護	1.対象の状況に応じた個別的な援助方法を再考する。(グループワーク) 1) 対象の病態・生活・ニードと実践した援助の関連性 2.グループで考えた対象に応じた援助を発表し、意見交換することで考えを深める。
	4		
	5		
	6		
	7	事例発表	3. 事例カンファレンス 4. 対象の個別的な看護の共通理解 5. グループ間で共通理解した援助の提供を考察する。
	8		
	9	経過に応じた看護	1. 事例の経過を意識した看護計画と看護実践
	10		
	11		
	12	事例発表	1. 発表方法の検討
	13		2. 発表準備
	14		3. 発表
	15		4. 発表・まとめ

【授業形態】 講義、演習

【評価方法】 出席状況、レポート、発表 (配点 60点)

【テキスト】 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェル・ヒロカワ
